

ぐりふぁん letter



Vol.
27
2013.12

INDEX

- ◆ 城陽市立久世保育園おひさまプロジェクト 2
 ～おひさま発電所が出来ました！～
 久世保育園おひさまプロジェクト収支報告
- ◆ トトロ先生の自然観察会 3
- ◆ 日本の…アジアの自然エネルギー普及の大きな力「きょうとグリーンファンド」 4
- ◆ NPO法人そうまグリーンアークの設立と今日まで 5
- ◆ 市民・地域共同発電所全国調査の結果報告 6
- ◆ 会員さん、こんにちは 7
- きょうとグリーンファンド協力店紹介
- 編集後記

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

城陽市立久世保育園に、おひさま発電所ができました!



久世保育園 ～各クラスから子どもたちのつばやきや保育士の思いより

久世保育園では、畑の野菜や園庭の木の実を収穫しては味わっています。また、干し柿作りなどを通して、太陽の力で渋い柿が甘くなることなども知り、自然の恵みに感謝し日々過ごしています。園の近くには、久世神社や正道官衛遺跡などがあり、毎日のように散歩に出かけています。そこにお菓子のゴミや空き缶などが落ちていると、「ゴミしたら、あかんなあ。」という子どもたちのつばやきが聞かれます。そんな時には、保育士はゴミを拾い園に持ち帰ります。ゴミを捨てることはいけないことですが、保育士の姿を見て、ゴミを拾いきれいにすることも大切だということを、子どもたちが学んでほしいと思っています。

そのような体験や散歩での自然とのかかわりを通して、「子どもたちが自然のありがたさや環境の大切さを学んでほしい。」という思いで、太陽光発電を取り付けることにしました。

まずは、グリーンファンドさんのご協力で、職員に「おひさま学習会」を開きました。地球温暖化と自然エネルギーの学習を受けて、それを機に職員自身もエコを考え、生活を見直すようになりました。「昼間は電気をつけない。」「掃除機のスイッチは強ではなく弱にする。」「電気ポットは使わず魔法瓶にする。」など、出来ることから始めました。

地域や保護者の方の協力で行った「おひさま発電をつくろう!」のイベントや環境啓発の腹話術を通して、子どもたちの環境への関心も大きくなりました。トマトやきゅうりの丸かじりをするとおいしい、太陽のおかげやな。」という言葉が自然と出てきました。芋掘りをした時には、「暗い土の中にいたから、次は明るい所でおひさまパワーをもらって甘くなろうな。」という会話も聞かれました。

パネルが屋根に取り付けられ、点灯式をしてからは毎日、発電表示盤を指差し、「汽車ぼつぼ光っている。」「おひさまパワーがいっぱいや。」という会話が親子でされている姿を見て、うれしく思います。自分たちで出来ることかもしれないませんが、子どもたちが環境の大切さを知り、健やかに育っていくことが出来るように、これからも取り組んでいきたいと思っています。

久世保育園おひさまプロジェクト 収支報告

2013年11月

収入の部		支出の部	
寄付金(206件)	1,078,000	設備設置費	4,972,000
設置協力金(12口)	1,200,000	印刷製本費	332,000
おひさま基金助成	664,000	環境学習講師謝金	62,000
清仁福祉会、久世保育園資金	3,150,000	記録費	40,000
		通信運搬費	54,000
		旅費交通費	15,000
		事務局経費	489,000
		雑費	8,000
		設置協力金事務管理費	120,000
合計	6,092,000	合計	6,092,000

(単位：円、千円以下原則四捨五入)



地域でつくった「おひさま発電所」

久世保育園に初めて伺ったのが、ちょうど今年の今頃でした。城陽市が所有する建物で、なかなか素敵な建物です。運営は、3・4号機のおひさま発電所づくりでご一緒した清仁福祉会で、理事会のご理解は当然ですが、有り難いものでした。

今回初めてだったのが、建物の「構造計算書」が必要だったこと。園の近隣自治連合会、社会福祉協議会にまで寄付の呼びかけを広げられたことでした。地域住民の要望に応じて整備された保育園であることを実感。卒園生の保護者の皆さんのご協力も、目に見えるものでした。

きょうとグリーンファンドがめざす一つの形「地域のみんなでつくるおひさま発電所」が実現したと思っています。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

トトロ先生の自然観察会 🍂🍁🍂🍁🍂🍁

きょうとグリーンファンドの自然観察会でしばしばフィールドとなるのが京都御苑。京都市内の中心部にあり、東西約700m、南北約1,300mのほぼ長方形をしています。このうち京都御所や大宮・仙洞御所などを除いた約63haが「国民公園」として終日開放されています。なかでも、母と子の森一带は昭和61年に、当時の環境庁による母と子が自然とふれあう機会を多くしようとの提唱により、地元の金融機関の寄付で森作りが行われた場所です。実のなる樹、野鳥の水飲み場、図鑑などの本が置いてある「森の文庫」などが整備されています。切り倒された大木などもあり、自然観察会では外せない場所となっています。

※「国民公園」は、皇居外苑や新宿御苑とともに、戦前までは旧皇室苑地でしたが、昭和22年12月の閣議決定(旧皇室苑地の運営に関する件)に基づき、国の直接管理のもとに広く国民に開放され、利用されています。



🍂 驚きの連続!!

11月16日(土)に自然観察会が開催されました。講師は、理事長板倉先生。集合場所での挨拶から早速先生の手がトトロに。(?が頭に浮かんだ方は、今度観察会に参加してみてください)。なんだなんだと驚いていると、観察会がスタート。

5mも歩かないうちから木や木の実の解説が始まり、皆興味津々。先生が色々な木の実を口に入れていたのと、キノコが一杯あったのが個人的には面白かったです。また紅葉のシーズンでもあったので景色が良く、観察会のコース設定も低木でできた木のトンネルや森の図書館などのお楽しみがあり、ウォーキングとしても楽しめました。

観察会の最後には、生垣に隠れた人工物を探すネイチャーゲームをしました。子供達の小声の「見つけた!」の後ろから同じ所を見ていたのですが、私は全然見つからなくて、力の差を見せつけられる結果に。

木漏れ日の中をゆっくり歩き回れた一日で、心身ともにリフレッシュでき、御所がこんなにも楽しい場所とは知りませんでした。(野球をする場所というイメージしか私は持っていませんでした。)皆様も普段何気なく通り過ぎてしまう場所で、たまには足を止めてみてはいかがでしょうか。今まで気付かなかった発見があるかも。

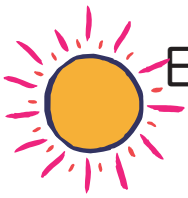
☺ 京都府建設交通部河川課 松川祐也(京都府職員NPO等短期派遣研修)



🍂 11月16日土曜日に京都御苑で妙林苑保育園の観察会が行われました。私は当日、スタッフとして参加させていただきました。

御所では紅葉を始めたイロハモミジ、イチョウ、様々な形のどんぐり、大小さまざまな松ぼっくりやリスやネズミの食痕のついた松ぼっくり、カリンの実やエノキの木の実、クロガネモチの実、ツブテングダケや大きなキノコ、小さなキノコなどたくさん自然の恵みを見つけることができ、子供たちが「こんなのあったよ!」と、自分達が見つけたものを見せてくれるときの顔はとても輝いていました。私たちでは見つけられないような、素敵な自然からの贈り物をたくさん見せてくれました。子供たちだけでなく、先生方やお父さんお母さん方も、子供に戻ったみたいに講師の板倉先生のお話やネイチャーゲームに参加してくださいました。私も秋の自然を楽しみながら子供たちの笑顔に元気をもらった観察会でした。

☺ 京都精華大学3回生 竹元冴矢



日本の…アジアの、自然エネルギー普及の大きな力 きょうとグリーンファンド

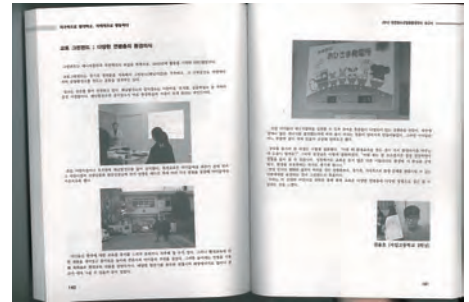
大阪市民ネットワーク 藤永 のぶよ

2013年1月7日、日本の環境運動の数々を学びたいと、韓国から青年たち18人が大阪に降り立ちました。「アンニョンハセヨ(안녕하세요)」笑顔たちがお行儀よく並びました。さあ今日から10日間、日本のアジマは若者たちとカケッコです。興味津々、とにかくキョロキョロの若者を、時間どおり訪問先に連れて行くことは至難の技なのです。

3日目には京都に入りました。何しろ彼らの情報では京都こそが「環境都市」なのです。今年は「自然エネルギー普及運動の方たちと会いたい。」という希望に、旧知の大西啓子さんに無理を言いました。いつものことながら、急な訪問依頼に快く応えていただきました。本当に感謝しています。

こざっぱりした素敵なホールには、お茶菓子が用意されていて、子供たちの緊張が一気にほぐれました。早速、大西啓子さんからきょうとグリーンファンド13年の取り組みと、16基になった共同発電所の概要について、パワーポイントを使って話されましたが、既に2基の共同発電所を設置しているグリーンコリア事務局にとっては、大変な刺激だったようです。

報告書では、徐一高等学校2年生のクオン・ヨンホ君が「きょうとグリーンファンド:多様な年齢層による環境処方箋」と紹介しています。やはりインパクトを与えたのは、設置現場の保育園に案内していただいたことです。園長先生の心づくしが冷たくなった手をホッと温めて嬉しかったのでしょう。彼は、この経験を次のようにまとめています。「僕たちは、この講義と子どもの家の見学を通して、環境教育は多様な年齢層に多様な方法で近づくことができるということを学びました。」太田グリーンコリアは韓国に帰って早速3番目の共同発電所を決めたようで、私のところにも募金依頼が届いています。



2013年3月6日、PM2.5が大きな社会問題になっている中国・北京市から、環境運動団体「Environmental Friends(環境の友)」が来阪しました。今度は大人のNGOの皆さんです。リーダーのリーリさんは元高等学校の先生で、廃棄物問題から環境運動に関わり、大気汚染問題やエネルギーへの関心も深めておられます。今回の緊急訪問の課題は当然「PM2.5」問題です。調達されたPMの簡易測定器を持参されました。北京空港での測定値と関空での差が10倍だったと、「なんと大阪の空気の綺麗なこと!」には戸惑います。

彼女の希望も、日本で始まっている「共同発電所」のこと。話を聞き、現地見学もしたい…と、またまた急な注文。早く言ってよ」と言いつつ、またまた大西啓子さんに無理なお願ひ、SOS!大西さんの講義で興味をもたれたのは、Green longjiangの張並東(ジャン・ヤンドン)さんです。彼は環境教育を主たる活動にされているので、グリーンファンドの体験型環境教育に感動されたようです。韓国の青年たちがそうでしたが、理論を抑えつつ体験することの重要性を痛感されているようです。特に現在の大气汚染問題では、一気に広まっている車社会の中では、一人ひとりの国民・住民の意識変化が重要な課題だということでしょう。案内いただいた保育園でも、ゴミ分別や雨水タンクに加え、使用済み天ぷら油の回収と、それがBDFFになって京都市営バスに使われていることなど、早速やってみたいとの意見でした。中国でも、自然エネルギーの推進政策は急速にすすんでいます。中でも太陽熱利用は世界一ですし、ソーラーパネルの出荷量は日本を抜いて世界一です。設置量も増加していますが、市民共同型はまだ皆無で、小水力・バイオマス・太陽光などでの可能性を思索されています。まもなく共同発電所のニュースが届くことでしょう。

きょうとグリーンファンドに刺激を受け、自分たちの発電所づくりに走っているのは、アジア諸国だけではありません。おおさかパルコープの組合員20名が訪問したのは2月5日のことです。この生協では、2012年の総代会で「原発に頼らないエネルギーシフト」を決意し、生協の事業所の屋根に設置する太陽光発電所はもとより、組合員自身がお金も知恵も力も出し合って設置しようと、NPO法人化を思考しました。考え方の基本は「ひとりの100歩よりみんなの1歩」という生協理念の実践です。大西啓子さんの講義を受け、現場の保育園を訪問させていただき、ますます心をひとつにしました。実践といっても、どこに設置するか、事務所をどこにするか、NPO法人化の手続き、定款の編纂、役員を選出(20年間責任の持てる人!という注文がつかまりました。)と、時間と手間と折衝を重ね重ねて、どうやら日の目を見ることができました。資金集めのノウハウは「グリーンファンドに学べ…」です。大西さんとの約束、「点灯式に呼んでな～」は生きています。

きょうとグリーンファンド、女性の知恵が生かされて女性の力が世の中を動かす、今から30年ほど前に訪問したイタリア・エミリア州のレジョエミリア市で知った女性だけの生協「コープ・ドンナ」を思い出します。ドンナは3人の女性から始まった生協で、市からの委託を受けて地域の高齢者の実態調査をしました。女性らしく近所付き合いから得た情報が作り上げた高齢者マップは、実際に役に立つ素晴らしいものだったそうです。

NPO法人 そうまグリーンアークの設立と今日まで

NPO法人 そうまグリーンアーク 菊地 基文

はじめまして、NPO法人 そうまグリーンアークの菊地基文と申します。この度、いつもお世話になっているきょうとグリーンファンドさんの会報誌で当法人を取り上げてくださるということで、大変恐縮ではありますがご紹介させていただきます。私どもの団体は福島県の相馬市で活動しており、現在の正会員数は24名で、主に20代から30代のメンバー構成となっています。

◆設立のきっかけ

2011年3月11日の東日本大震災と福島第一原発の事故後、壊滅的な被害を受けた相馬市の中で、私たちはこの経験から何を学び、今後それをどう活かすことができるのかと考えていました。

相馬(福島)では復興に向けた新たなまちづくりの計画が進む一方で、そこに住む人々や、漁業や農業などの一次産業とその関連産業には放射能問題が付きまとい、まちの活気にも大きな影を落としていました。流出した建造物などの再生は可能ですが、福島においては原子力災害という問題が復興を妨げる一番の要因で、私たちはその根本であるこれまでの日本のエネルギー政策について考えはじめました。そこで、原子力エネルギーサイクルの矛盾と原発立地を容認した福島の歴史を知り、その福島に住む私たちが次世代の子供たちや地域のために声をあげ行動しなければ、第二の原発被災地が生まれてしまうという危機感を抱きました。しかしながら、国や県を動かすには私たちはあまりにも小さな組織ですし、せめて自分たちの暮らす地域の人々に問題意識をもってもらいたいと思いました。

具体的な事業を興すため、そういった活動をしている団体を捜しました。そして、きょうとグリーンファンド(以下きょうとGF)さんに辿りついたわけです。『未来ある子供たちのため、市民主導でまちづくりを』という、まさに私たちが考える主旨と同じ取り組みを10年以上も前から行っているということで、すぐさま教えを乞いに京都まで足を運びました。

「きょうとGFさんの『おひさまプロジェクト』を相馬でもやりたい!」と懇願したところ、快くうなずいてもらい、ご協力をいただけることになり、昨年10月にNPO法人 そうまグリーンアークを設立しました。※そうまグリーンアークの名前は、緑の箱舟という意味で、未来のために今のうちから備えをしようということと、理事長である私が漁師であるため船に関するワードを使いたかったということから名付けました。

◆法人設立から今日まで

NPO法人の設立登記を済ませ、早速「そうまおひさまプロジェクト」の実施に向け、設置施設(民間幼稚園、保育園)の募集をかけたところ、5施設から応募がありました。施設選定の結果から言いますと、施設の老朽化や施設側との折り合いがつかず、すべて見送りとなってしまいましたが、その後の声掛けで、ある宿泊学習施設からお声がかり、来年度の設置に向け打ち合わせをしている状況です。

現在私たちは、来年度まで只々時間を浪費するのではなく、「今出来ることをやろう!」「おひさまプロジェクトにも自分たちが面白いと思うやり方を加えよう!」と、いくつかの取り組みを実施しています。

その一つとして、家庭から地域への波及を目的に、「節電は誰にでもできる発電」というキャッチコピーで、市内の全小中学生に節電シールをデザインしてもらい、最優秀作品を相馬市節電シールとして配布する「みんなでアクションプロジェクト」を実施しました。

また、おひさまプロジェクトも相馬市で実施するにあたり、相馬市の主要産業である水産業と絡めたいという想いから、『どんこプロジェクト』という事業を開始しました。福島の漁業の現状と合わせて事業説明をさせていただきます。震災後、福島県の漁業は原発事故の影響により操業の自粛が続いていましたが、昨年6月から、安全性が確認されている一部の魚種を対象とした試験操業が開始されました。復興へ向けた一歩ではあるものの、汚染水問題などにより何年後に本格操業を再開できるか、先が見えない状態が続いているのが現状です。そこで私たちは、「このまま本格操業を待てるだけでは、相馬の主要産業である



中学生の部 最優秀賞 木村優季菜さん



小学生の部 最優秀賞 林汰一くん



水産業とその関連産業が衰退してしまう「地元の食文化を繋いでいきたい」と、今まで相馬で獲れていた大衆魚のどんこ(正式名はエゾイノアイナメというタラ科の魚)を北海道や青森県の各浜から仕入れ、『どんこボール』と

いう水産加工商品の開発・販売・PRを始めました。そこで出た利益をおひさまプロジェクトに充てるのが、この『どんこプロジェクト』です。これは私自身が漁師ということと、子どもたちがこの地で育っていく中で、原発被災地という地域イメージを払拭したいという願いも込められています。長々と書き綴りましたが、これからもきょうとGFさんをお手本に活動してまいります。少しでも私どもの想いをご賛同いただければ幸いです。

市民・地域共同発電所全国調査の結果報告

固定価格買取制度で加速する市民・地域主体の自然エネルギー普及

気候ネットワーク 豊田 陽介

1 市民・地域共同発電所全国フォーラム2013と全国調査

9月21、22日に「市民・地域共同発電所全国フォーラム2013」を京都（龍谷大学・深草キャンパス）で開催した。北海道から鹿児島まで、全国から延べ520名以上の参加があり、それぞれの取組みについて報告・検討を行った。当日の様子はUSTREAM、YOUTUBEでも公開しているので、是非ご覧いただきたい。

(<http://www.kikonet.org/event/20130921.html>)

同フォーラムの開催に合わせて、再生可能エネルギーを活用した、全国の市民・地域共同発電所の動向を把握することを目的とした調査を実施した。今回の調査は2007年に開催されたフォーラム及び調査以来の全国調査となり、特に2012年7月の固定価格買取制度施行後の動向を把握するという意味でも重要な調査となった。本稿では調査結果を中心に全国の取り組み動向について紹介する。

2 市民・地域共同発電所と原発・エネルギー問題

2013年9月現在、115の団体によって458の発電所が設置されている。近年は停滞傾向にあったが、2012年から2013年にかけて新たに多くの発電所の建設が進んでいる。

その背景には、2011年3月の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故を契機に、エネルギー問題が日本社会の大きな課題となったこと、さらには2012年7月から始まった再生可能エネルギーの固定価格買取制度の影響があると見られる。

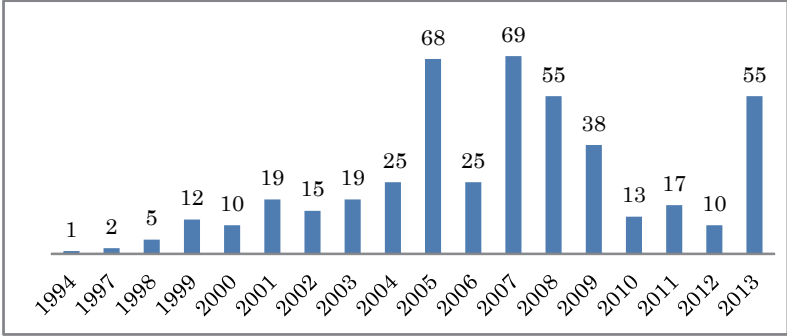


図 市民・地域共同発電所の導入実績 (機数) の推移

3 多様化する市民・地域共同発電所

2013年9月までに設置された市民・地域共同発電所の導入実績 (出力) は、51,640kWになった。種類別に見ると、太陽光発電をはじめ風力発電、水力発電が、2007年の調査時点から比べて増加している。

種類	基数	パーセント	出力 (kW)	パーセント
太陽光	415	90.6	8,359	16.2
太陽熱	1	0.2		
風力	28	6.1	42,240	81.8
小型風車	10	2.2	7.4	0.0
小水力	4	0.9	1,035	2.0
合計	458	100.0	51,641.4	100.0

表 種類別の導入実績 (基数と出力)

4 課題と今後の展望

市民・地域共同発電所を進める上での課題としては、「資金調達」に関するものが多くみられた。固定価格買取制度がスタートしたことで、単純に資金をどう調達するかというレベルから、出資法などの法律に対応しながら資金を調達し、20年間設備を管理しながら返還・返済していくのか、より高度なレベルで検討することが求められるようになってきている。実際、資金調達の手法も、これまでの寄付を中心とした募集から、擬似私募債といわれる借入や出資募集代行業者を通じて匿名組合出資や投資信託などの手法がとられるようになってきた。今後の展望としては、「地域単位のエネルギー自給 (再エネ100%) に向けた展開」について検討していきたいと考えている団体が多く見られた。市民・地域を主体にした再生可能エネルギーの普及を通じて、新しい価値を生み出すことによって地域の自立と発展を達成するとともに、地域から電力システム改革を含めて環境・エネルギー政策の転換に影響を与えていくことが求められることになるだろう。

調査の詳細については、「市民・地域共同発電所全国調査報告書」をご覧いただきたい。

(販売価格500円+送料実費 問合せ先：気候ネットワーク京都事務所)

前号に引き続き、新しい会員さんの紹介です。
新しい仲間がどんどん増えるように会員のみなさまもお声かけをお願いします。

◆緑豊かな地球を次世代に(NO MORE FUKUSHIMA)

自宅で発電して電力が自給でき余剰電力は売電できるとともに環境に良いという、一石三鳥の太陽光発電設備設置を夫婦で即決断しました。当時12年前から利用していた太陽熱温水器で太陽のありがたさを十分に感じていましたので、我が家の屋根に設置したのは1997年。たまたま京都議定書が制定された年でした。現在16年目ですが、まだ発電していますよ。

2年前の福島原発事故のショックと固定価格買取制度により、太陽光発電普及が企業ベースで加速しましたが、まだまだ個人の関心は低いように思います。

昨年、私の住んでいる地域の会館に太陽光発電パネルの設置を計画し、きょうとグリーンファンドの方にもご指導を頂きましたが、運営委員の賛成が得られずいまだ審議中となっています。反対理由は高額のコスト(10年の売電で返済可能)、設置建物の修理や耐用年数(かなりの預金があるが、今回は使わない。鉄骨で後20年以上は大丈夫)、南海トラフ地震への不安(ここは震度は5程度の予測)、売電の買取が続くか不安(最初に契約書を交わす)などが理由です。資料を作成し、問題はないと説明をしたのですが、納得が得られず私の力不足を痛感しました。

学区民みなさまの建物なので慎重になるのは当然ですが、どこに視点を置くかで行動も変わってくると思います。もう待たなしの地球温暖化のこと、ふるさとがあるのに帰れない福島原発事故のこと、今私たちにできることから行動する時だと思います。

・・・大倉 文子 さん

★きょうとグリーンファンド協力店紹介★

きょうとグリーンファンドのパンフレットを置いていただいています。



vol.3 喫茶 うずら

<http://www.cafe-uzura.info/>

喫茶うずらは、京都は伏見区、藤森にあります。おいしいコーヒーと、じっくりつくったカレーが自慢。木で囲まれた店内は、ほんのりと木の香り…。ゆっくりとした時間が流れます。

コーヒーは、煎りたて、挽きたて、淹れたての美味しさ。こだわりの無農薬有機栽培のコーヒー豆はフェアトレードのオーガニックコーヒーで環境にも身体にも優しい。一口めは、ほのかに甘く、爽やか苦味が広がり、微かに酸味を感じる。後口はスッキリ。

自慢のカレーは、スパイスが効いて美味しい!! 手間と時間を惜しみなくかけた手作りの特製カレーです。運が良ければ、美山田歌倉さんの鹿肉を使ったカレーが味わえるかも・・・

マスターは、きょうとグリーンファンドの会員さん、きょうとグリーンファンドの活動にも協力していただいています。近くの京エコロジーセンターのスタッフやボランティアにも人気のお店です。

〒612-0029
京都市伏見区深草西浦町六丁目31番地
ぶらっつ・うずら一階 TEL: 075-642-8876

編集後記

- ・特定秘密保護法] ができてしまいました。原発は「第4次エネルギー基本計画」案に「重要なベース電源」として位置付けられました。がっかりしないで、出来ることをやり続けたいです。(K.O)
- ・今年の台風18号、あっちこっちに洪水や土砂崩れをおこし、我が家も「避難指示」区域となり幸い無事でしたけど、紙一重の怖い思いをしました。本当に待たなしの気候変動。中々この対策は、進めてくれない。強行に決めちゃうものもあるのに…。(Y.F)
- ・「親も無し 妻無し子無し版木無し 金も無けれど死にたくも無し」年の暮れになると、なぜか林子平の和歌が浮かんできます。まあ、それでも毎日は新しく、新しい年もやってくるわけで。ここはひとつ「荷(まこと)に日に新たに、日々に新たに、また日に新たなり」という気持ちに切り替えて、よい年を迎えたいものです。(Y.K)
- ・今年はぐりふぁんのHPの充実をはかっています。ぐりふぁんレターのバックナンバーやおひさま発電所の報告パンフレットもご覧いただけます。Facebookにも“いいね!”をお願いします。(S.K)

《 ぐりふあん日誌 》

- | | |
|--|--|
| 6/25 京都グリーン購入ネットワーク幹事会 | 10/9 2013年度「こも市民活動団体への助成」二次審査 |
| 6/26 田舎代表藤原さん来室、確認書など協議 | 10/10 京都塩干魚卸協同組合訪問(自販機寄付について) |
| 6/29 「伏見をさかなござつばらん」まとめ報告会 | 10/16 つし保育園腹話術 |
| 7/2 かがやき保育園腹話術 | 10/21 つし保育園自然観察会(於:醍醐の山) |
| 7/8 久世保育園 打ち合わせ(点灯式について) | 10/23 第95回理事会 |
| 7/22 京都グリーン購入ネットワーク幹事会 | 10/24 コカ・コーラウエスト山本義隆さん、宮崎康宏さん来室 |
| 7/23 和歌山県伊都・橋本地球温暖化対策協議会ヒアリング | 10/26,27 「市民が進める温暖化防止」に参加(於:同志社大) |
| 7/31 京都グリーン購入ネットワーク総会 | 10/30 京都府職員研修打ち合わせ、松川祐也さん来室 |
| 8/8 相馬おひさまプロジェクト検討会
(アドバイザー/エコテック林さん) | 11/06 京都府地球温暖化防止活動推進センターで設置
場所募集について説明 |
| 8/19,20 福島県相馬市訪問
そうまグリーンアーク、相馬保育園と協議 | 11/07 市民活動総合センター森本純代さんヒアリング
(認定NPO法人について) |
| 8/29 久世保育園点灯式 | 11/11 非核の政府を求める京都の会 伊藤ともえさん、
長谷川長昭さん取材 |
| 9/9 生協連エネルギー会議で事例報告 | 11/14 久世保育園で収支報告と今後について最終確認 |
| 9/10 再生可能エネルギーWG | 11/16 妙林苑自然観察会(於:京都御苑) |
| 9/17 久世保育園 打ち合わせ(報告パンフについて) | 11/18 久世保育園自然観察会(於:久世神社) |
| 9/21,22 市民共同発電・全国フォーラム(於:龍谷大) | 11/28 京都府地球温暖化防止活動推進連絡調整会議 |
| 9/25 小金井市こがねいコンパス加藤春恵子さん取材 | 11/29 大宮保育園自然観察会(於:上賀茂神社・深泥池) |
| 9/29 左京アンダーラント出展(於:下鴨神社・糺ノ森) | 12/04 京都府立大学公共政策学科松井久晃さんヒアリング
(卒論の情報収集) |
| 9/30 大宅保育園 自然観察会(於:京都御苑) | 12/04 槇島ひらぎ保育園訪問、設置について説明 |
| 10/3 美山おもしろ農民倶楽部訪問(現地調査など) | 12/09 エル・コープ学習会で講演 |
| 10/4 太陽光発電所ネットワーク(PV-Net)ヒアリング | |
| 10/7 再生可能エネルギーWG | |

□ 寄付のお願い

おひさま基金への寄付は随時お受けしています。

寄付の方法:ゆうちょ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817
加入者名:きょうとグリーンファンド

★2010年5月1日付で国税庁から認定NPO法人として再認定されました。
認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数 78

正会員 48 賛助会員 27

法人会員 3 2013/12 現在



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角堺町21 事務機のウエダビル206
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～17:00)

